

# ツイッターRT特典

## ☆ 解説レポート ☆

# 『言語聴覚士が**上・下肢麻痺**を見極めるコツ』

## — アラキMethod③ —

著者：荒木謙太郎

本書は著作権法で保護されている著作物です。本書の使用に際しては以下のようにご注意ください。本書の著作権は著者 荒木謙太郎【アラキケンタロウ】に属します（以下 乙と記載） 乙の書面による許可なく、本書の一部または全てをあらゆるデータ蓄積手段（印刷物、ビデオ、テープレコーダー、電子ファイル）により複製、流用、転載及び転売を固く禁じます。

### ■ 免責事項

本書及び、メルマガ、ホームページの内容に従って読者が被害・トラブルにまきこまれたとしても乙は一切関知しません。すべて自己責任でお願い致します。またリンク先などについても同上とさせていただきます。

2022年4月20日作成

## 上肢・下肢麻痺の有無を見極められますか？

脳卒中後の身体機能の診療に、苦手意識のある言語聴覚士は少なくありません。

今回のレポートを活用頂けば、これからわずか10分で、上肢・下肢の麻痺の有無を見極められるようになります。

知識をコスパ良く吸収し、あなたの臨床や、後輩指導にすぐ活かしたい言語聴覚士には必見です。

=====

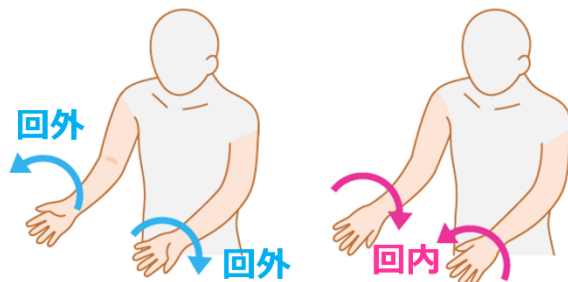
☆お知らせ☆ **STADセミナー** in リハノメ、年内を目標に調整中！

=====

■まず、ツイートした図を参照ください。

### **【有料級】上肢麻痺の有無**を見極めるコツ

- ・交互運動にスピードの負荷をかけることで麻痺の有無をスクリーニング
- ・**左右差**が、**あれば**麻痺あり(Brs.V以下) **なければ**麻痺なし(Brs.VI)



✔ **言語聴覚士にもできる！**（ほぼ毎日の臨床に活躍します）

『STADセミナー』in リハノメ 年内配信を目標に準備中！

手のひらを『**クルクル**』と回す。左右差をチェックする。以上！簡単ですね。これであなたはもう、上肢麻痺を見極められるようになっています。

\* 原則、肘は90度に曲げます。

===

次に、下肢です。

## 【有料級】 下肢麻痺の有無を見極めるコツ

- 交互運動にスピードの負荷をかけることで麻痺の有無をスクリーニング
- **左右差**が、**あれば**麻痺あり(Brs.V以下) **なければ**麻痺なし(Brs.VI)



✔ 言語聴覚士にもできる！ (ほぼ毎日の臨床に活躍します)

『STADセミナー』in リハノメ 年内配信を目標に準備中!

つま先を『トントントン』。左右差チェック。以上！これであなたはもう、下肢麻痺を見極められるようになっています。

===

### ■ アラキMeshod③の効果 | Brs.VとVIの理解

ブルンストロームステージ(Brs.) I~VI を身に着けるにはまず VとVIの違い を押さえるのが良きです。他のどのステージよりも分かりやすいので、コスパ良く臨床が上達するからです。

左表 Brs.VI を見てください。協調運動に問題なければ、VI←麻痺なし、問題あれば、V以下←麻痺あり。**分かりやすい**ですね。

そして更に、麻痺のあり・なしの把握は、**予後予測含むあらゆる臨床で重宝します**。従って、麻痺の有無の見極めは、臨床の上達に直結するスキルのひとつと言えます。

上肢・下肢に着眼したのが、ツイート図 **アラキMethod③** です。簡単に見極められるので、**再現性高く**、言語聴覚士の臨床に導入できます ☆麻痺の有無の見極めは臨床上も大きな意味を持つため、**スキルを身に着けた際の達成感**も大きいです。もちろん**インテーク面接**にも応用できます。

カルテに頻出するけど、言語聴覚士が身に着けるのに苦労する Brs. ですが、**アラキMethod③** を突破口に理解を深めよう！

===

#### Brs.<上肢・手・下肢>

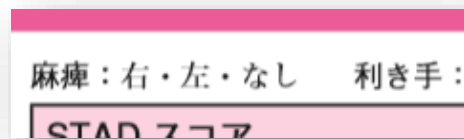
- I : 随意運動なし
- II : 共同運動またはその要素の最初の出現期
- III : 共同運動またはその要素を随意的に起こしうる
- IV : 基本的共同運動から逸脱した運動
- V : 基本的共同運動から独立した運動
- VI : 協調運動ほとんど正常

## ■デメリット | アラキMethod③ の限界

偽陽性が生じやすいです。例えば、病的な問題がなくても、運動音痴だとバラバラすることがあります。また、脳卒中でなくても、過去の骨折の影響で左右差が出ます。何れも鋭敏なテストが故に生じる注意点です。

===

『麻痺の有無』診療結果はSTADアセスメントシートに記入しましょう。



### 図.STADアセスメントシート

プロフィール上部に麻痺の記入欄があります。

===

## まとめ

- 麻痺あり・なし ( $Brs.V \Leftrightarrow VI$ ) の違いは、交互運動+スピードの負荷で問題無いか？
- **アラキMethod③**：上肢は回内 $\Leftrightarrow$ 回外、下肢は背屈 $\Leftrightarrow$ 底屈で検出
  - 簡単なので言語聴覚士にも行いやすい
  - 麻痺の有無の検出は臨床上でも意義が大きい
- **アラキMethod③** を突破口に、コスパ良く臨床を上達させよう！

===

ぜひ明日、ひとりめに行ってください。その後、5例、10例で自信を深めます。あなたの臨床や、後輩指導のお役に立てたら嬉しいです☆

最期に、ここまで読んでいただき、本当に有難うございました。

☆お知らせ☆ **STADセミナー** in リハノメ、年内を目標に調整中！